

園長だより NO40

夏がそろそろ終わります。残暑が厳しいことも予測されますが朝夕はだいぶ涼しくなりました。眠りやすくなった分、体もリラックスして疲れが出てくることでしょう。体調の管理には気をつけて下さい。

「夏、あそびのひとこま」

園庭の中央に山砂を盛ってできた小さな山があります。夏の間、限定で存在します。じきにフィールド全面をかけっこやリレーが毎日の遊びの中に位置づいてきます。そんな理由でこれから、こつこつと山崩しの作業が始まります。

山で遊んでいた4歳児のエピソード

山は登っても、滑っても、崩しても、思いのままに遊んでいいことになっています。夏の間は水遊びやプールでの遊びが中心です。

山はそれほど子ども達の関心がありませんでした。曇り空、気温も若干低い日、水遊びをひかえ、久しぶりの園庭遊び、山の存在は主役級になり子ども達の遊び場になりました。

「恐竜の化石ごっこ」と名付けて数人の女の子から遊びが始まりました。はじめは穴掘り、山崩しから、砂の塊がころころと出てくることから「なんか恐竜の化石みたい」「恐竜の骨もこんなのかな?」「じゃあたくさんほって見つけよう」と遊びは進んでいきます。本物の恐竜、化石は見たことはないけど頭の中は、恐竜のことでぐるぐるとめぐるっています。



大小さまざま、大きさによって骨、化石を容器に入れていきます。

丁寧に仕分けていきます。おおきい、ちいさい、おもい、かるい、四角だ、

丸だと化石(砂の塊)の違いに花を咲かせて会話がはずみます。



それぞれが夢中になり発掘作業が進みます。恐竜や化石への思いが仲間に伝えられ、他の仲間の思いを聞きとることで遊びの楽しさがみんなのものになっていきます。



4歳児の遊びに興味をもった2歳児男の子
そろそろと近づき、遊びに融合、みんなができる作業(穴を掘る、集める)行為がすんな

りと異年齢児の関りを結んでいきました。また、お姉さんの優しさが男の子を受入れています。

その後、水を必要とする場面ではひたすら水を運ぶ男の子、できることを喜び、役にたっていることを喜び、一緒に遊んでいることを楽しんでいます。



水を使いだしたことで遊びが変化、恐竜のおやつ作りをしたりと想像、創造の世界を楽しんでいました。



プールからの排水をいち早く遊びに取り込む

「楽しいことみつけた!」単に水を汲みとるだけではなく、川に見立て、葉っぱを船に見立て浮かべてみる。澄んでくる水の中からきらきらとした小石を発見すると小石集めに精をだし、「たからだ 宝だ」と大興奮、さながら佐渡金山ともいえる雰囲気!

2019.9.2

楽しい場の雰囲気はどんどん伝わる、仲間たちが集まってくる。

遊びの中から刺激を受け、発見し試してみる。遊びは思考の宝



庫なのかと思わせる子ども達。



5歳児 虫タワー

かごやケースをかさね作った大きな虫かご 1階はカブトムシ、2階はせみ 3階は・・・それぞれの階に虫が入っています。

どんどんタワーを大きくしようと限界まで慎重に積み上げる子ども達、気持ちが高揚しながらも自制しコントロール、慎重に慎重に取り組めるのも成長のあかし、意見が分かれ言い合う姿もあるがより楽しくするために仲間の存在は貴重だと子どもながらにわかっているようです。

たくさん、たくさん、あそんだ夏、
これからの子ども達に期待!
それぞれの成長と仲間との成長を楽しみに!

(園長 廣部 信隆)